慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	losを前綴りとする分離動詞の補足語について
Sub Title	Zu den Ergänzungen der trennbaren Verben mit los
Author	吉村, 創(Yoshimura, So)
Publisher	慶應義塾大学独文学研究室
Publication year	2007
Jtitle	研究年報 (Keio-Germanistik Jahresschrift). No.24 (2007. 3) ,p.146- 171
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN1006705X-20070331-0146

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

los を前綴りとする分離動詞の補足語について

吉村 創

los を前綴りとする分離動詞¹⁾(以下 los 動詞と表記)がとる補足語(Ergänzungen)は、対応する基礎動詞(前綴り los をとった形)のとる補足語と同じ場合もあれば、異なる場合もある。本論文では、標準的な現代ドイツ語で書かれた小説・新聞・雑誌²⁾から集めた los 動詞を含む文例 290 例を対象に、los 動詞と対応する基礎動詞との補足語の相違を分析し、その説明を試みる。考察の対象となる los 動詞は以下の 41 項目 ³⁾である。かっこ内の数字は、その los 動詞が含まれる文例の数を表す。

los-binden (1), los-brechen (7), los-brüllen (2), los-brummen (1), los-fahren (21),

¹⁾ この類の動詞については、「不変化詞動詞(Partikelverben)」「擬似接頭辞(Halbpräfix)を伴う動詞」など様々な呼称・捉え方が提案されているが、本論は前綴り los の造語論における位置・属性を直接論じるわけではないことから、最も一般的な呼称と思われる「分離動詞(trennbare Verben)」を採用し、以下単に「los 動詞」と表記するにとどめる。

²⁾ 引用文献は文末(168-169ページ)に挙げる。

³⁾ 辞書に記載される los 動詞の項目数は、Duden (³1999) で 95 項目、Klappenbach / Steinitz (1968) で 36 項目、Wahrig (1980) で 101 項目である。前綴り los による造語は非常に生産的であり(Katny 1994: 49; Steinitz 1981: 32; Storch 1978: 120)、本論文のために集められた 41 項目の中で上記の辞書に記載されていない項目として、los-brummen, los-hören, los-knipsen, los-ledern, los-plaudern, los-rauschen, los-regieren, los-rollen, los-senden, los-spielen, los-spritzen, los-strampeln が挙げられる。

los-feuern (1), los-fliegen (1), los-gehen (67), los-haben (2), los-hören (1), los-knipsen (1), los-kommen (6), los-lachen (4), los-lassen (42), los-laufen (3), los-ledern (1), los-legen (12), los-machen (1), los-marschieren (2), los-plaudern (1), los-prusten (3), los-rasen (1), los-rauschen (1), los-regieren (1), los-reißen (10), los-rennen (10), los-rollen (1), los-sagen (6), los-sausen (1), los-schicken (7), los-schlagen (8), los-schreien (1), los-senden (1), los-spielen (1), los-springen (2), los-spritzen (1), los-strampeln (1), los-stürzen (1), los-treten (4), los-werden (45), los-ziehen (7)⁴⁾

1章で、上記の los 動詞を(1)対応する基礎動詞と補足語が変わらないもの、(2)対応する基礎動詞より少ない補足語をとるもの、(3)対応する基礎動詞より多くの補足語をとるものに3分類し、それぞれのグループにおける los 動詞の特徴を詳しく分析する。続いて2章では、los 動詞と対応する基礎動詞との間の補足語の相違についての先行研究を検討し、その分析・説明の妥当性を検証する。最後に3章で、先行研究において説明されていない現象について、解決案を提示する。

1. los 動詞の分類

この章では los 動詞を (1) 対応する基礎動詞と補足語が変わらないもの、(2) 対応する基礎動詞より少ない補足語をとるもの、(3) 対応する基礎動詞より多くの補足語をとるものに3分類し、それぞれのグループにおける los 動詞の特徴を詳しく分析する。

1. 1. 対応する基礎動詞と補足語が変わらない los 動詞

このグループに属する los 動詞は、対応する基礎動詞が他動詞であれば 他動詞であり、自動詞であれば自動詞であるという点において、補足語が

⁴⁾ この他に現在分詞(los-knattern 1例、los-spurten 1例)、過去分詞(los-lassen 1例、los-lösen 7例、los-treten 1例)、名詞化した形(los-lassen 2例)で用いられた los 動詞を含む文例が見つかったが、補足語の観察が困難であるため考察の対象から除外する。

変わらないということができる。ただしより詳しく考察すると、補足語の点において基礎動詞と異なる特徴を示す los 動詞も存在する。以下、他動詞と自動詞の場合に分けて、それぞれの los 動詞を詳察する。

1.1.1.他動詞の場合

このグループに属する los 動詞は、対応する基礎動詞と同様、主格主語と対格目的語を補足語とする。まず以下のように対応する基礎動詞とほとんど変わらない意味・用法をもつ los 動詞から検討する。

- (1) <u>los-schicken</u>: In den vergangenen Monaten hat <u>er</u> nun gerade <u>einen</u>

 <u>Mitarbeiter</u> losgeschickt, um alle Olivenölproduzenten zu filmen. (Welt.de 22.12.2005 Der Ölmagnat)
- (2) <u>los-senden</u>: Allerdings sind mehrere Flugzeuge seit langem als "CIA-nahe" Maschinen identifiziert. Nach Informationen der WELT besteht auch die Möglichkeit, diese Daten mit den Daten einfliegender Maschinen abzugleichen, Österreich hat dies mehrfach praktiziert, sogar einmal <u>Abfangjäger losgesandt</u>. (Welt.de 07.12.2005 Kein rechtsfreier Raum)
- (3) <u>los-lassen</u>: Sie [=Momo] wollte hineingehen um sie [=Pfauen] aus der Nähe zu betrachten, aber der Mann mit der Weste hielt sie am Kragen zurück. "Hier geblieben!", sagte er. "Was fällt dir ein, Dreckspatz!" Dann **ließ** <u>er Momo</u> wieder **los** und wischte sich die Hand mit seinem Taschentuch ab, als habe er etwas Unappetitliches angefasst. (Ende 1973: 201)

los-schicken と los-senden は、主格主語で指示される対象が、対格目的語で指示される対象の移動を引き起こす行為を表しており、それぞれの補足語の統語機能(syntaktische Funktionen)も意味内容も、対応する基礎動詞のとる補足語と同じである。その移動は、主格主語で指示される対象の影響が及ぶ範囲を「出発点」として、そこから「離れて」いく移動である。los-lassen においても同様の分析が可能だが、その際多義語である基礎動詞

lassen のもつ意味のうち、主格主語で指示される対象が対格目的語で指示される対象を「放す」「失う」といった行為のみが los-lassen によって表されるところが特徴的である 5 。

以下の los 動詞においては、その補足語が主格主語と対格目的語であることは対応する基礎動詞と変わらないものの、補足語の意味内容が異なる。

- (4) <u>los-haben</u>: Ein fremdes, kaltes Wesen lag auf seinen Knien, ein feindseliges Animal, [...]. Mit einem Ruck stand Terrier auf und setzte den Korb auf den Tisch. <u>Er</u> wollte <u>das Ding</u> **loshaben**, möglichst schnell, möglichst gleich, möglichst sofort. (Süskind 1985: 24)
- (5) <u>los-schlagen</u>: <u>Der Manager</u> hatte 2004, [...], einen Makler mit dem Verkauf eines Stuttgarter Villengrundstück, samt halbfertigem Gebäude beauftragt, <u>das Objekt</u> aber drei Monate später eigenhändig für 2,6 Millionen Euro **losgeschlagen**. (Focus 12.12.2005: 240)
- (6) <u>los-treten</u>: Aber es war mir gerade genug, um nicht an den Besuch bei Hanna denken zu müssen. Nur manchmal, [...], wurde <u>der Gedanke</u> daran übermächtig und trat <u>Erinnerungen</u> los. (Schlink 1995: 190)
- (7) <u>los-machen</u>: Mit beiden Händen schüttelte er mich, riß an mir. [...] Ich machte mich los, lief weiter. (Hein 1982: 69)

los-haben においては、対格目的語で指示される対象が、主格主語で指示される対象の所有の範囲から「離れて」いくのであり、後者の前者に対する所有関係を表す基礎動詞 haben とは反対の関係を表す。los-schlagen は、主格主語で指示される対象が、対格目的語で指示される対象を「売る」こ

⁵⁾ 集まった 42 例の los-lassen のうち、11 例において対格目的語が省略されている。その場合、「放す」または「失う」対象はコンテクストから読み取れる。

とにより、その所有の範囲から「離れる」ことを表し、対応する基礎動詞 schlagen がとる補足語の間の関係とはまったく異なる関係を表している。 los-treten は比喩的な意味を獲得し、主格主語で指示される対象が、対格目 的語で指示される出来事を「引き起こす」という意味をもつ。この los 動 詞には "eine Lawine lostreten"(不注意に足を踏み出して雪崩を引き起こす)という連語があり、用例はすべてここから解釈できると思われる。。 los-machen については、文例(7)の 1 例しか蒐集することができず、たまたま 対格目的語が再帰代名詞であるが、辞書によると対格目的語は必ずしも再帰代名詞でなくてもよく、またその対格目的語で指示される対象が「離れて」いく「出発点」が、前置詞 von が導く句によって表されることもあるとのことである(前置詞 von が導く句については 1.3.2.を参照)。

まとめると、このグループに属する los 動詞は、los-treten を除いて、対応する基礎動詞がどのような意味をもっていようと、すべてある対象がほかの対象から「分離」するという意味を表している。また los-treten は、次の節で扱う los 動詞と同様に「開始」の意味をもつ。

1.1.2.自動詞の場合

ここに属する los 動詞に共通するのは、基礎動詞で表される行為が「開始」される、起動相 (Ingressiv) を表す点である。

- (8) <u>los-fahren</u>: Wir stiegen ins Auto. Ein Junge rief uns etwas zu, und die anderen lachten. Als <u>Henry</u> losfuhr, warf einer eine handvoll Kiesel und Sand gegen die Scheiben. Henry stoppte sofort, aber ich bat ihn, weiterzufahren. (Hein 1982: 61)
- (9) <u>los-sausen</u>: Doch der Ruf von Jenny und Lou als ehrliche Händler sprach sich herum, die ausländischen Kunden verlangten nach mehr Produkten. <u>Lou</u> sauste mit seinem Motorrad los, besorgte alles. In ihr Sortiment kamen Milch

⁶⁾ よって、この用法は基礎動詞 treten の結果動詞としての用法から派生したものであると考えられる。

und Brot. (Welt.de 30.11.2005 Alles, nur keine Massenware)

(10) <u>los-lachen</u>: Wieder lachte <u>er</u> los. Hel sagte: Ach wie lieb. Sabine sagte: Ihr wart ja eine schlimme Bande. Helmut lachte ein opernhaft volles Ha-ha-ha-haaa. (Walser 1978: 52)

文例(8)の los-fahren は、対応する基礎動詞 fahren が表す乗り物による移動の行為を「開始」するという意味を表す。このような移動を表す基礎動詞と対応する los 動詞には他に los-fliegen, los-laufen, los-marschieren, los-rasen, los-rennen, los-rollen, los-strampeln, los-ziehenがある。移動の「開始」を表す los 動詞には、対応する基礎動詞が特定の音を発する、または特定の音を発しながら移動する行為を表すものがあり、文例(9)の los-sausen の他にも los-brüllen, los-brummen, los-rauschen がある。また、文例(10)の los-lachen のように、対応する基礎動詞が特定の音を発する行為を表し、その行為の「開始」を los 動詞が表すものがあり、他に los-brüllen⁸⁾, los-plaudern, los-prusten, los-schreien がある。

これらの los 動詞の補足語は主格主語のみであり、対応する基礎動詞と同様である。また、この主格主語が指示する対象は、基礎動詞の場合と同じく、移動、もしくは特定の音を発する行為をおこなう対象である。よって、los 動詞のそれぞれの補足語の統語機能も意味内容も、対応する基礎動詞の補足語と同じである。にもかかわらず、これらの los 動詞においても、対応する基礎動詞と、補足語の点において異なる特徴を見出すことができる。それは、例えば移動を表す los 動詞においては、基礎動詞が移動の「出発点」「経路」「目的地」といった内容を表す前置詞句・副詞句と共起することができるのに対し、少なくとも本論文のために集められた文例においては、そのような前置詞句・副詞句と共起する los 動詞がほとんど

⁷⁾ 対応する基礎動詞 ziehen は多義であるが、集まった los-ziehen の文例 7 例すべてが「移動の開始」を意味している。

⁸⁾ los-brüllen には、「移動の開始」を表す文例と、「特定の音を発する行為の開始」を表す文例の両方が見つかった。

見出せなかった点である⁹。特定の音を発する行為を表す los 動詞においても、何について話したり笑ったりするのかを表す前置詞 über が導く句が共起する例は見出せなかった。すなわち、これらの los 動詞は、補足語として主格主語しかとり得ず、対格、与格目的語はもちろんのこと、補足語相当の前置詞句・副詞句をとることもない ¹⁰⁾という点が対応する基礎動詞と異なるのである。

以下に文例を挙げる3つのlos動詞は、対応する基礎動詞と同様に自動詞であるのだが、los動詞独自の意味を発展させたものである。

- (11) <u>los-brechen</u>: Als <u>der Skandal über den Hersh-Artikel</u> **losbricht**, will keiner etwas gewusst haben. (Der Spiegel 2004: 115)
- (12) <u>los-gehen</u>: "Wir sollten alle unsere alten Freunde mobilisieren. Und die vielen Kinder, die jetzt immer kommen. Ich schlage vor, <u>wir gehen</u> sofort alle drei los und jeder benachrichtigt so viele, wie er finden kann. Und die sollen es wieder den anderen weitersagen. [...]" (Ende 1973: 101)
- (13) <u>los-gehen</u>: Dann ging um 20.38 Uhr <u>das zwölfminütige Lichtspektakel</u> los: (Welt.de 28.11.2005 Reptil-Nacht mit Lichtspektakel)
- (14) <u>los-gehen</u>: Denn am kommenden Wochenende eröffnet das Iglu-Dorf auf dem Zugspitzplatt. Los geht <u>es</u> mit der Iglu-Bar. Nach und nach werden je nach Schneelage weitere Iglus entstehen. (Welt.de 27.11.2005 Liebesgeflüster im Schlafsack auf 2600 Meter Höhe)

^{9) &}quot;in welcher Richtung"と共起する los-fahren が一例見つかった(Welt.de 25.12.2005 Das große Bahn-ABC)が、前置詞が与格名詞を支配していることから、この前置詞句は単に「場所」を示しているとも解釈できる。

¹⁰⁾ 自由添加語(freie Angaben)としての前置詞句・副詞句が共起する例は、多数見出された。

- (15) <u>los-gehen</u>: Während die Feier bereits um 19 Uhr endet, **geht** <u>es</u> in der Pauluskirche Altona zu dieser Zeit erst richtig **los**. Im Gemeindesaal wird bis 22 Uhr gemeinsam gespeist und getrunken. (Welt.de 23.12.2005 Vom Gabentisch zur Single-Börse)
- (16) <u>los-gehen</u>: "Wir sind dabei, die Zukunft des Hafens zu gestalten," sagt Stapelfeldt der WELT, "im Gegensatz zum Umschlag an der Kaikante wird im Hinterlandverkehr mit anderem Schema gearbeitet." Am Montagmorgen etwa komme der Betrieb im Hafen nur schwer in Gang wie bei einem Handwerker, wo <u>die Arbeit</u> erst ganz allmählich **losgeh**e, wenn der Meister komme. (Welt.de 16.12.2005 Spediteure planen Drei-Schicht-System für den Hafen)
- (17) los-stürzen: Ihren größten Moment hatte Tracy Chapman, als sie am 11. Juni 1988 überrascht auf die Bühne mußte. Irgend jemandem war das Keyboardprogramm abgestürzt, und es war niemand zur Hand, der mal eben das Publikum unterhalten konnte. Nur Tracy Chapman, die noch keiner kannte. Sie stürzte los und war eine gemachte Frau. Der Auftritt im Wembley Stadion bescherte der Sängerin einen Welterfolg: (Welt.de 25.11.2005 Tracy Chapman: Spiel, Satz und Sieg für die Energie)

los-brechen は、主格主語で指示される出来事が「開始」することを表す。 los-gehen には、文例(12)のように主格主語で指示される対象が移動を「開始」するという、対応する基礎動詞と関連する意味を表すもの $^{11)}$ もあるが、多くは主格主語で指示される出来事が「開始」することを表す。その「開始」する内容は文例(13)から(16)にみられるように多様である $^{12)}$ 。 los-

¹¹⁾ この場合主格主語は人を指示するが、必ずしも移動を表さず、ある物事を (勢いよく)開始する意味を表す los-gehen もある。なお、この用法の losgehen が前置詞 auf が導く句を伴い「攻撃」の意味を表す場合については 1.3.3.を参照。

¹²⁾ 文例(14)および(15)に見られるように、主格主語が es であり、その内容が主

stürzen は、主格主語で指示される対象が物事を勢いよく「開始」する、という意味を表す。この「勢いよく」というニュアンスは los-brechen や losgehen のいくつかの文例にも現れるが、このグループに属する los 動詞すべてに現れるわけではなく、そのことは文例(16)のように副詞 allmählich と共起する los-gehen が存在することからも明らかである。Katny(1994:55)は、los 動詞に「強意(Intensiv)」の意味要素が見出せる場合、それは対応する基礎動詞の意味による、と主張する。

1. 2. 対応する基礎動詞より少ない補足語をとる los 動詞

このグループに属する los 動詞は、1.1.2.で扱った「開始」の意味をもつ 自動詞の los 動詞と密接なつながりをもつ。以下の los 動詞もすべて、対 応する基礎動詞の表す行為を「開始」することを表す。

- (18) <u>los-hören</u>: Also los: Tee brühen, aufs Sofa legen, loshören. (Welt.de 03.12.2005 Gebissen)
- (19) <u>los-knipsen</u>: Bettina räkelt sich auf drei übereinander gestapelten roten Pirelli-Reifen. Mit einer schnellen Bewegung streicht sie sich die langen blonden Haare aus dem Gesicht. <u>Der ältere Herr</u> beugt sich über sie, **knipst** los und scheint die Welt um sich herum fast zu vergessen. (Welt.de 03.12.2005 Die Frau, das Ersatzteil)
- (20) <u>los-regieren</u>: Große Koalitionen fühlen sich am Start grundsätzlich siegessicher aus dem Gefühl heraus, <u>wir</u> können ja munter **losregieren**, weil die anderen uns in Karlsruhe nicht zu Fall bringen können. (Welt.de 28.11.2005 Es besteht die Gefahr schwarz-roter Kungelrunden)

に前置詞 mit が導く句によって表される los-gehen の例が多い。また、主格主語が省略された文例が1例、"der Schuss geht nach hinten los"の連語、およびそれに準じる文例が3例見つかった。

(21) <u>los-feuern</u>: Am 18. September gegen 21 Uhr brausten zehn Araber in drei Wagen zum Park und stiegen aus. <u>Der Hauptangeklagte</u> feuerte los, erschoß einen der Araber und verletzte zwei weitere mit seinen Kugeln, hieß es im Gerichtsurteil. (Welt.de 15.12.2005 Zwölf Jahre Haft nach wilder Schießerei am Viktoriapark)

このグループに属する los 動詞には、他に los-spritzen と los-spielen が見つかった。これらの los 動詞は、対応する基礎動詞が自動詞および他動詞の両方の用法で用いられるのに対し、必ず自動詞として用いられるところに特徴がある。よって、基礎動詞は補足語として主格主語の他に対格目的語をとる可能性があるのに対し、los 動詞は主格主語しかとり得ない。

また、これらの los 動詞に共通するのは、対応する基礎動詞が行為動詞 (Handlungsverben) であることである。Storch (1978: 120) は原則的にはどんな行為動詞も los 動詞の基礎動詞になりえると主張し、Katny (1994: 49) は、基礎動詞が事象動詞(Vorgangsverben)であることはまれであり、状態動詞(Zustandsverben)であることはないと主張する。文例(18)における los-hören は「C Dブックを聴く」というコンテクストでの文であり、主体的な行為を表していると解釈できる ¹³⁾。

このグループに属する los 動詞で、基礎動詞とは異なった意味内容をもつものは los-legen である。この los 動詞は、対応する基礎動詞 legen が主

¹³⁾ los-ledern については、辞書に記載されておらず、文例からもその意味がはっきりと解釈できないのであるが、基礎動詞 ledern が「ひどく殴る」という意味をもつことから、「罵声を浴びせる」という意味を表すと解釈でき、そうであるならこのグループに属することになる。なお、この例文は Welt 紙のHamburg 版からの引用であり、方言的な表現である可能性もある。(文例: Der Trainer, der seine Kicker ansonsten vor öffentlicher Kritik schützt wie eine Löwenmutter ihre Jungen, lederte kräftig los: "Wenn ich sehe, daß Sergej Barbarez mit seinen 34 Jahren so eine tolle Hinrunde spielt und in jedem Spiel bis an die Schmerzgrenze geht, während andere im Vergleich zu ihm nur hinterherhinken, dann kann da etwas nicht stimmen." (Welt.de 23.12.2005 Sturm-Problem des HSV soll im Winter gelöst werden))

格主語と対格目的語をとる他動詞であるのに対し、常に主格主語しかとらない自動詞として用いられ、主格主語で指示される対象が物事を勢いよく 「開始」することを表す。文例を以下に示す。

(22) <u>los-legen</u>: An einem Sonntag faßte sie den Entschluß, sich als Geschmackforscherin selbständig zu machen. Schon am Montag legte sie los. Ihr erstes Projekt war eine Diät-Suppe, sie nannte das ein "Minikal-Gericht." (Welt.de 04.12.2005 Das Experiment Geschmack)

1. 3. 対応する基礎動詞より多くの補足語をとる los 動詞

このグループに属する los 動詞には、対格目的語が増えるもの、前置詞 von が導く句(以下 von 句と表記)が増えるもの、前置詞 auf が導く句(以下 auf 句と表記)が増えるものの 3 種類がある。以下、それぞれの los 動詞の特徴を考察する。

1. 3. 1. 対格目的語が増えるもの

los-werden 1項目である。この動詞は、対応する基礎動詞 werden が自動詞であるのに対し、主格主語と対格目的語を補足語とし、主格主語で指示される対象と対格目的語で指示される対象とが「離れる」ことを表す。具体的には、以下の文例(23)から(25)に見られるように、ある対象からの解放、人を厄介払いする、物の売却などの意味が表される。

- (23) <u>los-werden</u>: Auch Jahre nach ihrem Tod wird <u>Romy Schneider die Rolle der</u> <u>jungen österreichischen Kaiserin</u> nicht **los**: Das Hamburger Panoptikum hat die Schauspielerin als Sissi jetzt in Wachs verewigt. (Welt.de 22.12.2005 Sissi im Wachsfigurenkabinett)
- (24) <u>los-werden</u>: Stoiber ist nachhaltig geschwächt. Er ist nicht mehr in der Lage, seine Partei geschlossen zu führen. Deswegen wissen viele CSU-Strategen, daß sie ihn loswerden müßten. Aber sie wissen nicht wie. (Welt.de 18.12.2005 "Man kann nicht nur prügeln")

- (25) <u>los-werden</u>: Am meisten kann sich darüber Airbus-Konkurrent Boeing freuen. Der Flugzeugbauer hatte 2001 noch 527 Jets ausgeliefert, zwei Jahre später waren es auf dem Höhepunkt der Luftfahrtkrise nur noch die Hälfte, und auch 2004 wurden <u>die Amerikaner</u> nur <u>285 Flieger</u> los. (Welt.de 27.11.2005 Flugzeughersteller wachsen rasant)
- 3. 2. von 句が増えるもの
 以下の los 動詞が、このグループに属する。
- (26) <u>los-kommen</u>: <u>Jane Wertheim</u> hat Deutschland ihr Leben lang weit hinter sich gelassen und kam doch nicht ganz <u>davon</u> los. Nach dem ersten Besuch fuhr sie immer wieder mit ihrem Mann nach Berlin. (Welt.de 04.12.2005 "Ich hasse niemanden in dieser Sache")
- (27) <u>los-binden</u>: Wir fühlten uns wie Partisanen, die aufbrachen, um ein Munitionsdepot der Nazis in die Luft zu jagen, und waren darum fast enttäuscht, als <u>der Pförtner</u>, nachdem wir ihm erklärt hatten, wir seien von Ali beauftragt, den Hund zu holen, <u>Parsifal</u> arglos <u>vom Stuhlbein</u> losband und einem von uns die Leine in die Hand drückte. (Maron 1996: 137)
- (28) <u>los-reißen</u>: Momo fühlte sich hilflos. Am liebsten hätte sie die vollkommene Puppe einfach liegen lassen und etwas anderes gespielt, aber <u>sie</u> konnte <u>sich</u> aus irgendeinem Grund nicht <u>von ihr</u> losreißen. (Ende 1973: 89)
- (29) <u>los-sagen</u>: Der heute 51 jährige Williams war 1981 wegen vierfachen Mordes zum Tode verurteilt worden. Im Gefängnis sagte <u>er sich von seiner kriminellen Vergangenheit</u> los. (Welt.de 01.12.2005 US-Gouverneur stoppt 1000. Hinrichtung)

los-kommen は、対応する基礎動詞と同様自動詞であり、基礎動詞

kommen も von 句と共起することができるが、los-kommen の場合は von 句を義務的に補足語として伴う、集まった文例 6 例中 6 例ともが von 句を伴う、という点が特徴的である。主格主語で指示される対象が、von 句で指示される対象から「離れる」ことを表す。los-binden, los-reißen, los-sagenは、主格主語で指示される対象の行う行為により、対格目的語で指示される対象と von 句で指示される対象とが「離れる」ことを表す。los-bindenにおいては、対応する基礎動詞のとる補足語(対格目的語と(主に)an 句)の間の関係とは反対の関係が表現されている。los-reißen においては、集まった文例 10 例のうち 6 例で von 句が省略されており、また 6 例において対格目的語が再帰代名詞であった。los-sagen の対格目的語は常に再帰代名詞であり、主格主語で指示される対象が von 句で指示される対象と「訣別する」ことを宣言する、という意味を表す。

1. 3. 3. auf 句が増えるもの

これらの los 動詞は、主格主語および対格目的語で指示される対象が、auf 句で指示される対象を「目的」として「移動」することを表す。以下の los 動詞が、このグループに属する。

- (30) <u>los-schlagen</u>: Das Knallen und Knattern wurde unheimlich. Es war, als schlüge jemand auf sie los. (Walser 1978: 119) (水上で嵐にあう場面)
- (31) <u>los-springen</u>: Alles, was zu duften hatte, duftete jetzt neu und anders und herrlicher als je zuvor. Und <u>auf alles</u>, aber wirklich alles, selbst auf die neuartigen Dufthaarbänder, die Baldinis kuriose Laune eines Tages hervorbrachte, **sprang** <u>das Publikum</u> **los** wie behext, und Preise spielten keine Rolle. Alles, was Baldini produzierte, wurde ein Erfolg. (Süskind 1985: 116)
- (32) <u>los-gehen</u>: Laut Anklage waren <u>die mutmaßlichen Mitglieder der "Marek-Bande"</u> im Mai unweit der Herbertstraße bewaffnet mit Baseballschlägern und Schlagstöcken <u>auf zwei Bordellbetreiber</u> losgegangen. (Welt.de 08.12.2005 Angeklagte schweigen im Rotlicht-Prozeß)

(33) <u>los-lassen</u>: Nichts hatte HSV-Trainer Thomas Doll unversucht gelassen, seine Kicker im Eiltempo auf Vordermann zu bringen. Mit Lymphdrainagen und Schlammpackungen hatte <u>er seinen medizinischen Stab auf die erschöpfte Beinmuskulatur seiner Elf</u> losgelassen. (Welt.de 27.11.2005 Mit Schlamm und Jarolim zum Sieg)

文例(30)の los-schlagen は、文例(5)で扱った 1.1.1.0グループに属する他動詞の los-schlagen とは異なり、自動詞の schlagen を基礎動詞とする。losspringen $^{14)}$, los-gehen も対応する基礎動詞は自動詞である。los-gehen においては、auf 句で指示される対象に対する主格主語で指示される対象の「攻撃」の意図が加わる。他動詞 lassen を基礎動詞とする los-lassen は、文例(3)で扱った 1.1.1.0グループに属する los-lassen とは異なり、主格主語で指示される対象が対格目的語で指示される対象を auf 句で指示される対象を [目的] として「移動」させることを表す。

2. 先行研究における los 動詞の補足語に対する説明

2. 1. 先行研究

Storch (1978: 117) は、以下のような los 動詞と対応する基礎動詞との補足語の相違を指摘する。

- (34a) Klara las ein Buch.
- (34b) * Klara las ein Buch los.
- (35a) Der Sänger sang ein Lied.
- (35b) * Der Sänger sang ein Lied los.
- (36a) Der Bevollmächtigte schrieb einen Brief.
- (36b) * Der Bevollmächtigte schrieb einen Brieflos.

¹⁴⁾ auf 句が省略された文例が 1 例ある。

起動相を示す、すなわち対応する基礎動詞で表される行為の「開始」を表現する los 動詞においては、基礎動詞が他動詞であっても、対格目的語が現れ得ないことが、これらの文例で示されている。

McIntyre (2001: 151) はこれを特定の前綴りがもつ2つの要因でもって説明する。一つ目は、分離動詞においては前綴りが対格目的語をとるか否かを決定するというものである。前綴りの要求する意味的な条件を満たす対格目的語のみが、分離動詞の補足語として共起しえる(S.140)、という説である。二つ目は、前綴りの中には対格目的語をブロックするものがあり、そのような前綴りはその意味論的構造に対象物を取り入れられない、とするものである。そのような前綴りをもつ分離動詞においては、その意味が空間的に解釈される場合、対象物の通過する「経路」を前綴りが表し、対象物が対格目的語により指示され得るのだが、その意味が時間的に解釈される場合、すなわち「開始」の意味が表される場合は、ある「出来事」の時間的な推移が表現され、対象物を対格目的語で指示する事ができなくなる(S.150)。

さらに Zeller (2001: 490) は、「開始」とは「出来事」の開始であると位置づけ、前綴り los が「出来事」を修飾する場合は対格目的語などの項 (Argumente) を規定することはできない、と説く。

2. 2. 先行研究における説明の妥当性の検証

まず、McIntyre(2001: 151)の一つ目の要因、すなわち「分離動詞においては前綴りが対格目的語をとるか否かを決定する」という仮説を、本論のために集められた文例をもって検証する。そのためには、los 動詞がとる補足語を整理する必要がある。補足語の統語機能の点から、本論文で考察の対象となる los 動詞を以下のグループに分類できる。

A. 主格主語のみをとる los 動詞

- ・1.1.2.のグループに属する los 動詞
- · 1.2.のグループに属する los 動詞

- B. 主格主語と対格目的語をとる los 動詞
- ・1.1.1.のグループに属する los 動詞
- ・1.3.1.のグループに属する los 動詞
- C. 主格主語と von 句をとる los 動詞
- ・1.3.2.のグループに属する los 動詞のうち、los-kommen
- D. 主格主語と対格目的語と von 句をとる los 動詞
- ・1.3.2.のグループに属する los 動詞のうち、los-binden, los-reißen, los-sagen
- E. 主格主語と auf 句をとる los 動詞
 - ・1.3.3.のグループに属する los 動詞のうち、los-gehen, los-schlagen, losspringen
 - F. 主格主語と対格目的語と auf 句をとる los 動詞
 - ・1.3.3.のグループに属する los 動詞のうち、los-lassen

つまり、los 動詞がとる補足語は、主格主語、対格目的語、von 句、auf 句の4種類ということになる。さらに、それぞれの補足語には、以下に示す意味内容が認められる。

主格主語

- ・対象の「分離」を引き起こす行為者:Bの los 動詞のうち los-machen、 Dの los 動詞すべて
- ・「分離」する対象(「分離」を引き起こす行為者を兼ねる場合を含む): Bの los 動詞のうち los-schicken, los-senden, los-lassen, los-haben, los-schlagen, los-werden、Cの los 動詞すべて
- ・ある「目的」への「移動」を引き起こす行為者:Fの los 動詞すべて
- ・ある「目的」へ「移動」する対象:Eの los 動詞すべて
- ・ある出来事の「開始」を引き起こす行為者:Aの los 動詞のうち los-brechen と文例(13)から(16)のような los-gehen 以外すべて、Bの los 動詞

のうち los-treten

・「開始」する出来事:Aの los 動詞のうち los-brechen と文例(13)から(16) のような los-gehen

対格目的語

- ・「分離」する対象:Bの los 動詞のうち los-treten 以外すべて、Dの los 動詞すべて
- ·ある「目的」へ「移動」する対象:Fの los 動詞すべて
- ・「開始」する出来事:Bの los 動詞のうち los-treten

von 句

・「分離」する対象:Cの los 動詞すべて、Dの los 動詞すべて

auf 句

「移動」の「目的」: Eの los 動詞すべて、Fの los 動詞すべて

基礎動詞がいかなる行為を意味するかに関わらず、すべての los 動詞において「対象の分離」、「ある目的への移動」、「出来事の開始」の3つの意味のいずれかに関わる決まった内容の補足語が共起する。この点から、los 動詞の補足語の統語機能および意味内容を決定するのは前綴り los であると推測することができる。ただし、補足語の決定に基礎動詞が全く関わっていない訳ではないことについては、後に触れる。

さて、McIntyre(2001: 151)の二つ目の要因、すなわち「前綴りの中には対格目的語をブロックするものがあり、そのような前綴りはその意味論的構造に対象物を取り入れられない」という主張であるが、これには問題点が少なくとも2点認められる。一点目は、ブロックされる補足語を対格目的語に限っていることである。1.1.2.の考察において明らかなように、los 動詞は対応する基礎動詞が表す移動の「出発点」「経路」「目的地」などを表現する前置詞句・副詞句と共起することができず、特定の音を発する行為を表す los 動詞においても、何について話したり笑ったりするのかを表す über 句が共起できない。対格目的語だけでなく、このような前置

詞句・副詞句についても説明の必要がある。二点目は、McIntyre(2001: 150)においては、この現象を引き起こす原因が、los 動詞が出来事の時間的な推移を表すことに求められていることである。los 動詞が空間的な意味を表す場合には対格目的語の有無を説明できないことになり、それでは1.1.1で考察したように対格目的語が共起するが、その意味内容が対応する基礎動詞のとる対格目的語と異なる場合を説明できない。Zeller(2001: 490)および Stiebels(1996: 64f.)においては、この現象を引き起こす原因が、los 動詞が起動相(Ingressiv)を表すことに求められており、それでは1.1.2.および1.2.で扱った自動詞の los 動詞しか説明することができない。

先行研究の方法で説明するのが最も困難だと考えられる現象は、loswerden が主格主語の他に対格目的語を補足語とすることである。対応する基礎動詞 werden は自動詞であるのに、前綴り los がつくと対格目的語を補足語としてとるようになる。この現象はどのように説明すべきであろうか。

3. los 動詞がとる補足語についての包括的な説明の試み

Bornschier (1971: 70) は、前綴り los に対して「分離」の意味と「開始」の意味の2つを認めている。続く先行文献においても、los 動詞の意味は大概この2つにまとめられる。本論もそれに倣い、「分離」の意味をもつ los 動詞と「開始」の意味をもつ los 動詞に分けて考察する。

3. 1. 「分離」の意味をもつ los 動詞

「分離」の意味をもつ los 動詞においては、分離する 2 つの対象が補足語によって表される ¹⁵⁾。それには次のパターンがある。

(1) 主格主語で指示される対象と対格目的語で指示される対象とが 「分離」する:Bの los 動詞のうち los-schicken, los-senden, loslassen, los-haben, los-schlagen, los-werden

¹⁵⁾ ただし、los-lassen, los-machen, los-reißen において、分離する対象の片方が省略される例が見つかっている(1.1.1.および 1.3.2.参照)。

- (2) 主格主語で指示される対象と von 句で指示される対象とが「分離」する: Cの los 動詞すべて (= los-kommen)
- (3) 対格目的語で指示される対象と von 句で指示される対象とが 「分離」する:Dの los 動詞すべて (= los-binden, los-reißen, lossagen)

このうち(3)の場合は、主格主語で指示される対象が「分離」を引き起こす行為者となる。よって、以上3つのパターンにおける los 動詞の補足語の意味内容は、「分離」を引き起こす行為者か、「分離」する対象かのいずれかである。「分離」の意味をもつ los 動詞はこの2 通りの補足語しかとり得ないし、またこの2 通りの補足語であれば基礎動詞が本来とっていた補足語がどんな意味をもっていたかに関わらずとり得るのである。1.1.1.で扱った los 動詞の補足語の意味内容が対応する基礎動詞の補足語の意味内容と異なることは、これで説明がつく。また、1.3.1.および1.3.2.で扱った los 動詞の補足語の意味内容についてもこれで説明がつくが、それらのlos 動詞の補足語の統語機能について、さらに説明を要する現象がある。すなわち、los-werden と los-kommen は対応する基礎動詞がそれぞれ同じ自動詞であるのに、los-werden が主格主語のほかに対格目的語をとるのに対しlos-kommen が主格主語のほかに von 句をとるという相違が説明されなければならない。この現象を説明するには、sein と共起する los の考察が必要である。

- (37) "Was ist denn mit dem los?" sage ich und bleibe stehen. (Jenny 1997: 101)
- (38) Als wesentlichen Nachteil sieht Sahr dies: "Schon bei einer durchschnittlichen Erhöhung um zwei Prozent pro Jahr zahlt der Hausbesitzer nach 30 Jahren nahezu doppelt so hohe Zinsen, während der Eigentümer in der Regel seine Schulden los ist und keine Belastung durchs Bauland mehr hat. (Welt.de 11.12.2005 Grundstück pachten und Kreditkosten sparen)

本論文のために集めた sein と共起する los の文例 59 例においてはいずれ

も、sein と los が 2 語に表記されている。よってこれを分離動詞 los-sein として分析する事は控えておく。このうち 47 例において、文例(37)のように、主格主語で指示される出来事が「起こる」という意味が表現される。これは、「開始」の意味をもつ los 動詞とつながる用法であるとも解釈できる。しかしここで問題となるのは、文例(38)のように、主格主語で指示される対象と対格目的語で指示される対象が「分離」するという意味を表す用法である。このような文例は 11 例見つかっている ¹⁶⁾。 sein は自動詞であり、通常は対格目的語と共起しないのであるが、ここでは対格目的語が現れている。ここで sein は主語と述語内容語を結ぶことを主な機能とするコプラ動詞(Kopulaverben)であることを考慮すると、基礎動詞がコプラ動詞であれば、自動詞であっても los 動詞が対格目的語をとり得ると仮定することができる。werden はコプラ動詞の 1 つであり(Duden ⁷2005: 800)、また文例(38)と同様、los-werden には次の文例(39)のように los と werden が 2 語に分かれて表記される例もある。

(39) Er hatte den beliebten Trainer im Mai aus Wolfsburg vertrieben, doch so ganz scheint <u>er ihn</u> nie los zu werden. (Welt.de 28.11.2005 Wolfsburgs Fans wenden sich vom Verein für Langeweile ab)

この文例(39)は los-werden(もしくは los werden)と los sein との親近性を示すものと考えられる。これに対し、los-kommen に対応する基礎動詞 kommen はコプラ動詞ではない。よって、los-kommen も自動詞のままにとどまり、「分離」する二つの対象が主格主語と von 句によって指示されると考えられる。この点から、基礎動詞が los 動詞の補足語の選択に全く関わっていないとは言い切れないとの結論に至る。

¹⁶⁾ 残りの1例は、主格主語で指示される対象が移動を開始する、という意味を表す。(文例: Da sind wir morgens früh los, wenns noch dunkel war und waren am nächsten Abend wieder zurück. (Welt.de 17.12.2005 Genialer Deal in Athen - mit Seitenwagen))

3. 2. 「開始」の意味をもつ los 動詞

Katny(1994: 49)は、移動動詞(Bewegungsverben)を基礎動詞とする los 動詞には「ある一点から離れる」という意味が認められるとし、ここからこれらの los 動詞が「開始」の意味をもつことを説明する。この考えに立てば 3.1.で扱った「分離」の意味をもつ los 動詞とのつながりも説明できるように一見思えるが、しかしこの考え方では、前綴り ab および weg を伴う分離動詞との区別がつかなくなる。ab 動詞および weg 動詞も「分離」の意味をもち、los 動詞と同じような意味をもつこともしばしばある(例えば los-marschieren、ab-marschieren と weg-marschieren)。しかし、これらの分離動詞が「開始」の意味をもつとは言いがたい点が、los 動詞とは異なる。Storch(1978: 124ff.)は los-marschieren と ab-marschieren および weg-marschieren を比べ、ab 動詞および weg 動詞の方が、「出発点」からの「分離」の意味を強く表すとする。では、なぜこれらの分離動詞の中で los 動詞のみが「分離」の意味と「開始」の意味を両方とももつに到ったのだろうか。

この2つの意味をつなぐのは、1.3.3.で扱った移動の「目的」を指示する auf 句を補足語とする los 動詞であると考えられる。以下に文例を再録する。

- (40) <u>los-springen</u>: Alles, was zu duften hatte, duftete jetzt neu und anders und herrlicher als je zuvor. Und <u>auf alles</u>, aber wirklich alles, selbst auf die neuartigen Dufthaarbänder, die Baldinis kuriose Laune eines Tages hervorbrachte, sprang <u>das Publikum</u> los wie behext, und Preise spielten keine Rolle. Alles, was Baldini produzierte, wurde ein Erfolg. (Süskind 1985: 116) (=31)
- (41) <u>los-gehen</u>: Laut Anklage waren <u>die mutmaßlichen Mitglieder der "Marek-Bande"</u> im Mai unweit der Herbertstraße bewaffnet mit Baseballschlägern und Schlagstöcken <u>auf zwei Bordellbetreiber</u> losgegangen. (Welt.de 08.12.2005 Angeklagte schweigen im Rotlicht-Prozeß) (=32)

これらの文例においては、移動の「出発点」ではなく、移動の「目的」が auf 句によって指示されている。この auf 句により los 動詞は、3.1.で扱った場合のように「分離」する 2 つの対象を補足語とする用法から、「分離」する一方の対象を主格主語 (los-lassen の場合は対格目的語) で指示し、その対象が移動する「目的」を指示する auf 句をもう 1 つの補足語とする用法を獲得する。このように auf 句を補足語としてある「目的」への「移動」を表す los 動詞は、文例(41)における los-gehen のように、対応する基礎動詞が移動動詞である場合にも見出される。また Wahrig(1980)においては、移動動詞を基礎動詞とする los 動詞のうち、los-fahren、los-fliegen、los-laufen、los-marschieren、los-rasen、los-rennen の諸項目に、「目的」を指示する auf 句を補足語とするとの記述がある。この用法から、ある「目的」に向けて「移動」を「開始」する los 動詞の用法が生じ、その用法がさらに移動動詞以外の動詞を基礎動詞とする los 動詞にも応用され、「開始」の意味が独立したのだと考えられる。

よって、los 動詞が「分離」の意味から「開始」の意味を獲得したのは、auf 句を補足語とすることによって「出発点」から「目的」への視点の転換が生じたことに原因すると推測され、このことが ab 動詞や weg 動詞と異なる用法を los 動詞に獲得させたのだと考えられる。Fleischer/Barz (²1995: 339) は、「開始」を表す los 動詞は ab 動詞や weg 動詞と異なり「目的志向的(zielorientiert)」であるとするが、この「出発点」から「目的」への視点の転換を考慮すると、理解できる解釈である。

1.1.2.で扱った移動の「開始」を表す los 動詞においては、しかし auf 句を伴う文例が見つからなかった。そこで、「目的」を指示する auf 句が補足語としての地位を弱め、前綴り los は専ら基礎動詞で表される行為の「開始」を表すようになったのだと推測される。すでに「出発点」を表す補足語を伴わなくなった los 動詞がさらに「目的」を表す補足語をも伴わなくなり、補足語としてはある出来事の「開始」を引き起こす行為者か、「開始」する出来事を意味内容とするものしか認められなくなる。1.1.2.および 1.2.で扱った los 動詞のほとんどにおいては前者の意味内容が主格主語で指示され、los-brechen と文例(13)から(16)のような los-gehen においては後者の意味内容が主格主語で指示される。また、ある出来事の「開始」

を引き起こす行為者が主格主語で、「開始」する出来事が対格目的語であるというパターンで補足語をとる los-treten(1.1.1.の文例(6)を参照)があり、この2通りの意味内容を補足語が指示する限り、「開始」を表す los 動詞が他動詞であっても構わないことが分かる。よって、2章で検討した先行研究におけるように、los 動詞が「開始」の意味をもつことと対格目的語を伴わないことを同列に扱う説明方法では、すべての los 動詞を説明することができない。

また、1.1.2.および 1.2.で扱った los 動詞において、補足語相当の前置詞句・副詞句や、対応する基礎動詞のとる対格目的語が共起できない点を指摘したが、これも「開始」を表す los 動詞が、ある出来事の「開始」を引き起こす行為者か、「開始」する出来事を意味内容とする補足語しかとり得ないことから説明される。

本論文では、各々の los 動詞がとる補足語の統語機能および意味内容を 文例をもってつぶさに調べ、各々の los 動詞また対応する基礎動詞のとる 補足語のパターンの共通点および相違を探ることにより、los 動詞の補足 語について体系的に把握することを試みた。この分析・考察から、さらに los 動詞がもつ意味の体系をも明らかにすることが可能になったと思われ る。los 動詞の補足語に関するそれぞれの説明・解釈が、los 動詞のみに適 用されるものなのか、それとも他の前綴りを伴う分離動詞にも適用される ものなのか、調査の範囲を広げて検討することが、今後の課題である。

参考文献

1. 辞書

Duden: Das große Wörterbuch der deutschen Sprache. 10 Bde. Mannheim ³1999.

Wörterbuch der deutschen Gegenwartssprache. 6 Bde. hrsg. von Ruth Klappenbach / Wolfgang Steinitz. Berlin 1968.

Brockhaus Wahrig: Deutsches Wörterbuch. 6 Bde. hrsg. von Gerhard Wahrig. Stuttgart 1980.

2. 引用文献

Ende, Michael (1973): Momo. Stuttgart. (zitiert nach der Schulausgabe 1993)

- Focus (12.12.2005): Nr.50. München.
- Hein, Christoph (1982): Der fremde Freund. Berlin. (zitiert nach der 5. Taschenbuchausgabe 1995)
- Jenny, Zoë (1997): Das Blütenstaubzimmer. Frankfurt am Main. (zitiert nach der 6. Taschenbuchausgabe 1999)
- Maron, Monika (1996): Animal triste. Frankfurt am Main. (zitiert nach der 4. Taschenbuchausgabe 2001)
- Schlink, Bernhard (1995): Der Vorleser. Zürich. (zitiert nach der Taschenbuchausgabe 1997)
- Der Spiegel (2004): Jahres-Chronik 04: Der Rückblick. Hamburg.
- Süskind, Patrick (1985): Das Parfum. Zürich. (zitiert nach der Taschenbuchausgabe 1994)
- Walser, Martin (1978): Ein fliehendes Pferd. Frankfurt am Main. (zitiert nach der Taschenbuchausgabe 1980)
- Welt.de 21.11.2005 31.12.2005. (http://www.welt.de/extra/service/444127.html) 3. その他の文献
- Bornschier, Marion (1971): Die Verbalpräfixe im Französischen und Deutschen: Ein Vergleich der Systeme. Zürich.
- Duden (⁷2005): Die Grammatik. Mannheim.
- Fleischer, Wolfgang / Barz, Irmhild (21995): Wortbildung der deutschen Gegenwartssprache. unter Mitarbeit von Marianne Schröder. Tübingen.
- Katny, Andrzej (1994): Zu ausgewählten Aktionsarten im Polnischen und deren Entsprechungen im Deutschen. Rzeszów.
- McIntyre, Andrew (2001): Argument Blockages Induced by Verb Particles in English and German: Event Modification and Secondary Predication. —In: Dehé, Nicole / Wanner, Anja (Hgg.), Structural Aspects of Semantically Complex Verbs, Frankfurt am Main, S.131-164.
- Steinitz, Renate (1981): Der Status der Kategorie "Aktionsart" in der Grammatik: Oder: Gibt es Aktionsarten im Deutschen? Berlin.
- Stiebels, Barbara (1996): Lexikalische Argumente und Adjunkte: Zum semantischen Beitrag von verbalen Präfixen und Partikeln. Berlin.
- Storch, Günther (1978): Semantische Untersuchungen zu den inchoativen Verben im Deutschen. Braunschweig.
- Zeller, Jochen (2001): How Syntax Restricts the Lexicon: Particle Verbs and Internal Arguments. —In: Linguistische Berichte 188, S.459-492.

(慶應義塾大学非常勤講師)

Zu den Ergänzungen der trennbaren Verben mit los

YOSHIMURA, So

Der vorliegende Aufsatz soll sich mit den Ergänzungen der trennbaren Verben mit *los* (*los*-Verben) auseinandersetzen. Dafür wurden aus Romanen und Zeitungen bzw. Zeitschriften, die in gegenwärtigem Deutsch geschrieben werden, 290 Beispielsätze mit *los*-Verben gesammelt.

Zuerst werden die gesammelten *los*-Verben in drei Gruppen eingeteilt, je nachdem, ob die Ergänzungen der jeweiligen *los*-Verben im Vergleich zu denen der entsprechenden Basisverben unverändert, vermindert oder vermehrt sind. Fast alle transitiven *los*-Verben mit den unveränderten Ergänzungen bezeichnen jene Handlung, bei der ein Gegenstand von einem anderen Gegenstand "getrennt" wird, ungeachtet dessen, dass bei einigen zu dieser Gruppe gehörenden *los*-Verben die entsprechenden Basisverben keine solche Handlung bezeichnen (z.B. *los-haben*, *los-schlagen*). Die intransitiven *los*-Verben in dieser Gruppe bezeichnen den "Beginn" der vom entsprechenden Basisverb bezeichneten Handlung. Bei ihnen tritt nur ein nominativisches Subjekt als Ergänzung auf und keine Adverbialien außer freie Angaben, während bei den entsprechenden Basisverben Adverbialien auftreten können (vgl. Beispielsätze (1) und (2)):

- (1) Was weiß ich, warum du <u>nach Schwetzingen fährst</u>. (Schlink 1995: 48)
- (2) Wir bezahlten die Hotelzimmer und fuhren los. (Hein 1982: 157)

Die *los*-Verben mit den verminderten Ergänzungen bezeichnen den Beginn der vom entsprechenden Basisverb bezeichneten Handlung; sie sind alle intransitiv,

während bei einigen zu dieser Gruppe gehörenden los-Verben die entsprechenden Basisverben sowohl transitiv als auch intransitiv sein können (z.B. los-hören, los-spielen). Bei den los-Verben mit den vermehrten Ergänzungen tritt außer den bei den entsprechenden Basisverben auftretenden Ergänzungen entweder ein akkusativisches Objekt (los-werden), oder ein präpositionales Objekt mit von (z.B. los-kommen, los-reißen), oder ein präpositionales Objekt mit auf (z.B. los-gehen, los-springen) auf.

Dann soll erklärt werden, warum bei den los-Verben die oben genannten Ergänzungen auftreten. Die Aussage, dass bei den los-Verben die trennbare Vorsilbe los die zu auftretenden Ergänzungen bestimmt (McIntyre 2001: 151), erklärt, warum los-Verben nur "die Trennung zweier Gegenstände" und "den Beginn einer Handlung" bezeichnen können, während jeweilige entsprechende Basisverben verschiedene Handlungen bezeichnen können. Die Aussage erklärt außerdem, dass es als Ergänzungen der los-Verben nur vier Möglichkeiten gibt, nämlich das nominativische Subjekt, das akkusativische Objekt, das präpositionale Objekt mit von und das präpositionale Objekt mit auf. Aber um den Unterschied zwischen den Ergänzungen von los-werden (nominativisches Subjekt und akkusativisches Objekt) und denen von los-kommen (nominativisches Subjekt und präpositionales Objekt mit von) zu erklären, muss man auch die Eigenschaft der Basisverben berücksichtigen, nämlich dass das entsprechende Basisverb von loswerden (werden) eine Kopula ist. Die los-Verben, bei denen ein präpositionales Objekt mit auf auftritt und "die auf irgendein Ziel gerichtete Bewegung" bezeichnet wird, vermitteln zwischen den die Trennung zweier Gegenstände bezeichnenden los-Verben und den den Beginn einer Handlung bezeichnenden los-Verben, was bei den ab- und weg-Verben, die teilweise synonym zu los-Verben sind (z.B. los-, ab- und weg-marschieren), nicht beobachtet wird.